

情報を活用し、自分の考えが伝わるように書くことのできる児童の育成
 —情報カードを使って収集・整理した情報を根拠に、考えを伝え合う活動を通して—

特別研修員 国語 福澤 奈津季 (小学校教諭)

手立て2 情報を根拠に友達と考えを伝え合う活動

＜自分の考えを再認識・再考し、情報をどのように使うかを考えながら書くために＞

- 情報カードで収集・整理した**情報を根拠**に考えをまとめる。
- 伝え合いを基に、自分の**考えを再認識・再考**する。
- 再認識・再考した考えを基に、情報をどのように使うかを考えながら、自分の考えが伝わるよう表現を工夫してリーフレットを書く。



【友達と考えを伝え合う活動】

- 伝え合いの視点（構成・情報量・図や写真の扱いなど）を共有する。
- 情報カードを併用しながら割付を読み合う。
- 自分の考えやアドバイスを伝え合う。

【児童の振り返りから】

- 友達の意見を聞いて、やはり自分はテーマを決めた理由も書くべきだと思った。
- 友達が言ってくれたことを基に考えて、割付を見直すことができた。自分と友達とは感じ方が違うから、見直すところが分かりやすくなる。

【児童が再考したリーフレットの割付】

（黒は再考前からあった部分、

赤・青は伝え合いの後に言葉で書き足した部分）

手立て1 情報カードを使って情報を収集・整理する活動

＜情報を自分の考えの根拠とするために＞

- 小さなカードで**情報を小分けに収集**・カード単位で**目的や意図に応じて情報を整理**する。
 →自分にとって必要な情報のみ引用・記録し、考えの根拠とすることができるようにする。
- 見出しや出典欄を設け、引用の仕方や情報源の取扱いに配慮することができるようにする。

（収集した情報に応じた見出し）
 テーマ【 】
 （自分に必要な情報を引用・記録）

<出典> 「 年 」
 （出典欄には、筆者・資料名・出版社・出版年・URL等を記載）

礼三息で丁寧なおじぎ
 テーマ【日本の礼儀】
 息を吸いながら腰から上を前に倒し、止まったところで息を吐き、そして息を吸いながら元の姿勢に戻る。これをすると、大変丁寧な印象を与える。自分自身の精神状態を落ち着かせる。

<出典> 「日本文化いろは事典」
http://xxxxx.net/xxxx/xxx_xxxx/xx.xxxxx

実践事例：6年国語「日本文化を発信しよう」（光村図書）
 【言語活動：情報を収集・整理し、リーフレットとしてまとめる】

児童の実態

- 自分の考えが伝わるように書くのに、何を根拠にしたらよいか分からない。
- 集めた情報をどのように整理して使ったらよいか分からず、自分の考えを伝えられないことがある。

教師の願い

- 情報や経験を自分の考えの根拠とさせたい。
- 情報を収集し目的や意図に応じて整理する力を身に付け、自分の考えを書くために活用させたい。

成果○と課題△

- 情報カードに小分けに情報を収集**し、カード単位で自分に必要な情報を**目的や意図に応じて整理**したことで、児童は情報の必要な部分だけ引用したりまとめたりし、考えの**根拠**とすることができた。
- 自分の考えを友達と伝え合った**ことで、児童は自分の考えを**再認識**したり**再考**したりすることができた。また、情報をどのように書くかを考えながら書く姿が見られた。
- △情報を整理したり友達と考えを伝え合ったりする際に形式的になる児童もおり、なぜこのテーマで調べ、考えたのかを意識して活動できるよう支援する必要がある。